opusdei.org

コンクラーベに向け て、オプス・デイ属 人区長の手紙

ハビエル・エチェバリーア司教は2005年4月10日付けで聖十字架司祭会とオプス・デイの信者と協力者たちに宛てて手紙を送った。

2005/04/13

イエスが私の娘たちと息子たちをお 守り下さいますように!

一週間前にしたためたばかりです が、再度手紙を書く必要を感じてい ます。ここ数日、教会で神の恵みを 示す出来事の只中を生きているので す。私も神の民の牧者の一人とし て、皆さんにカトリック教会の素晴 らしい一致を心から自分のものにす るようお願いします。この教会の一 致は、ヨハネ・パウロ2世の帰天に 際して自然にわき上がった祈りと子 供としての態度によって、いっそう 明確に表されました。私たちがこれ らの体験を一過性の感動で終わらせ ることなく心に留め、キリスト者と して振る舞うことに惜しみない心で 努める決意を新たにし、神と人々に 什える熱意を育み、忠実な愛の実り をもたらすことができるようにと、 神に願っています。

ヨハネ・パウロ2世のご死去そのものが、新たな要理教育でした。教皇様は、人間の贖い主、イエス・キリストに関する回勅で実り豊かな教皇

職を始められました。そして、言葉が不自由になられて教えを与えた教えをリストとした教えをリストといった。すなわち、キリストというれまの教を愛し、キリストを受けたがある。人は神の子と時間からの世に生を受けた時間からのである、と言う教えです。

教皇様が、神の民の父、そして最高 の牧者としてお過ごしになった、教 会と世界におけるたぐいまれな歴史 の一ページが閉じられたばかりで す。主は私たちに、この時代の証人 となるようお望みであり、私たちは ペトロの後継者の模範に従ってイエ ス・キリストを告げ知らせる恵みと **責任を受け取ったのだ、ということ** を再度訴えたいと思います。18日か ら始まるコンクラーべによって次期 教皇が選出され、教会の揺るぎない 継続の新たな一章が開かれます。カ

トリック信者は皆、枢機卿様方と全教会の祈りに一致しつつ、この会議に活き活きと参加することができます。

この数日間、私は、創立者と共に ローマで過ごした1958年と1963年の コンクラーベのことを度々思い起己 しています。創立者が、次の教皇様 のために祈り、全てをお捧げする。 かしておられたこと。 た、fumata bianca(白い煙)に歓 喜され、主席枢機卿が次期教皇の氏 名を発表する前に、すぐにひざまずいてOremus pro beatissimo Papa nostro を唱えられたその信仰を、ホ れることはできません。ドン・ア い口も同じようになさいました。

あの時の聖ホセマリアのように、今から、どなたであろうとヨハネ・パウロ2世の後継者を心から愛するようにしましょう。子供としての愛を込めて愛し、その方のために祈りま

しょう。神が十二分に恵みをお与え になり、その司牧によって教会の聖 性が高まり、社会に平和がもたらさ れるように願いましょう。

また、全てのカトリック信者が信仰を持って新たな時代に目を向け、超自然の論理からかけ離れた考えに惑わされることのないように、祈りましょう。1964年1月にあったパウロ6世の創立者との初めての謁見の思い出がよみがえります。謁見の終わりに、教皇様はドン・アルバロにも声

をかけられ、「長年の付き合いにな りますね。でも、私はsono diventato vecchioずいぶん年をとり ました。| とおっしゃったのです。 するとドン・アルバロはすぐに、 「いいえ、教皇様、そうではなく、 lei è diventato Pietro ペトロになら れたのです。」と答えられました。 私は、今年の初めから、関わってい る人たちにOmnes cum Petro ad lesum per Mariam 皆がペトロと共 にマリアを通ってイエスへ、という 射祷を唱えるよう勧めてきました。 聖ホセマリアから聞いたこの射祷 は、ここ数日、格別の意味合いを帯 びて心に響いています。次のパパ様 がどなたなのかは分かりませんが、 どなたであろうとペトロになられる 方です。今から、教会の母、聖マリ アに依り頼みつつ、祈りの内にその

ここ数日の間、ヨハネ・パウロ2世 に寄せられた世界中の人々からの敬

方に付き添いましょう。

意と愛情を目の当たりにしました。 それこそが、聖性が引きつける力、 キリストの力強い魅力、そして忠実 であるために戦う人の内に輝き出る 神の栄光を示しています。

それと同時に、教皇様との一致は、 それに伴っている愛情のように強固 なものであり、教会がペトロを中心 に固く一致していることを確認させ てくれます。ヨハネ・パウロ2世へ の感謝と後継者への愛情あふれる歓 迎の挨拶は、一致に基づく同じ愛情 の表明なのです。

皆さんに繰り返します。いつもの通り、今こそ一致する時です。教皇様はいつでも一致の中心であり礎です。そのご死去に至るまでそうであられたヨハネ・パウロ2世のように、後継者に選ばれる方も同じです。ヨハネ・パウロ2世に対する深い感謝を表したいという熱意がわき出るのは、正義にかなったことで

す。神ら託された使命を実現しようと全力を傾けられたのですから。また、どなたであれ、普遍的な司牧職に昼夜を分かたず励まれる新しい教皇様のために、今から皆さんの愛情と感謝の心をささげてくださることを、確信しています。

心からの愛を込めて祝福を送ります。

皆さんのパドレ

†ハビエル

ローマ、2005年4月10日

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/konkurabenixiang-kete-opusudeishuren-qu-chang-noshou-zhi/(2025/11/20)